

牧師所感：子猫の絶叫に吹っ飛んできた母猫

当教会の真横の空き地は、小型車が二台に入る広さである。その広さの中には浄化槽が埋められており、廻りに野草や百日紅の木、水菊、色々の花が植えられている。

ところで、いつの間にか花壇はこんもりと繁り、小さな森となって昆虫の住居となっている。

教会の右隣は車が通る車道となっていて、頻繁に車が通る。右隣の車道の横は小高い丘になっていて、雑木林となっている。教会の後ろには民家が2軒、軒を連ねている。

さて当教会の真後ろの民家では5,6匹の猫を飼っている。だが部屋の中で飼っていて、外に出てくることは滅多にない。ところが我が家には数年前から一匹の捨て猫が現れた。誰かは知らないが、病気になったので、教会に捨てたらしい。よく見ると上品なペルシャ猫で、病気を患っていた。この出来事が切掛けになって、今は猫を飼うことになった。

然らば今まで猫とは無縁であった筆者は、上の出来事によって、猫を家族として飼うこととなった。今は猫三代を飼うことになって、猫の葬儀と出産を手伝う羽目になってしまった。

ところが数ヶ月前、3代目の猫が子猫を産んだ。産む時、家内と教会員は産婆になり、難産の母猫を助けた。2匹は死産、3匹は無事に産まれて成長している。また小さい子猫だが、目の青い子猫がいて、筆者の介抱を独り占めにしている。

ところが数日前、子猫の顔に目やにが流れていて、捕まえて、布を水で湿らして顔を拭いた。初めは嫌がるので、ぎゅっと力を入れて捕まえ、少し強く拭いた途端、大声を出して泣き、引っかくので、手を放した。キャーッと大声で泣いた途端、何処にいたのか、母猫が弾丸のように飛んできて、子猫をかばった。ああ筆者は呆気にとられて、母猫の愛情にすごく感動した。一瞬の出来事であった。

然るに私共キリスト者に身の危険が迫った時、主なる神は、天使を通して危険から身を守って下さる。

何という愛であろうか！！

ローマ12:12 希望をもって喜び、苦難を耐え忍び、たゆまず祈りなさい。